

I 概要

【内政】

- 9日 ペトロ・ボゴタ市長の罷免発表
- 30日 サントス大統領の年頭演説

【外交】

- 2～4日 サントス大統領の米国訪問
- 12日 バローゾ欧州委員会委員長の当国訪問
- 12日 コロンビア外務省による観光ガイド対象スペイン語習得プロジェクト修了式
- 16日 バレリー・フルネロン仏スポーツ大臣の当国訪問
- 17日 ヘスス・グラシア・スペイン国際協力・イベロアメリカ担当長官の当国訪問

II 本文

【内政】

1 ペトロ・ボゴタ市長の罷免発表

9日、ペトロ・ボゴタ市長（元ゲリラ組織M-19の構成員）が行政監察庁により罷免され、15年間の公職追放となる旨発表があった。一連のごみ収集事業のシステム変更を、条例により実施した際、その内容が違法なものであったことが理由とされた。9日付大統領府プレスリリースは、行政監察庁の決定を尊重するとし、ペトロ市長が再審請求をすることは構わないとした。

FARCは、コロンビア国民は民主主義の尊重を要求すべきであるとの声明を発出し、「ペトロ市長とはイデオロギー及び政治的な相違はあるものの、度を越した寡頭政治の傲慢さの証拠を見た以上は、黙っている訳にはいかない」旨述べた。

2 サントス大統領の年頭演説

30日、サントス大統領は新年の挨拶のための演説を行った。同演説においてサントス大統領は、2014年は、国会選挙及び大統領選が実施されるが、政府としては、選挙の完全な透明性及び自由を保証する旨、2013年は経済が好調であった旨、治安の顕著な改善がみられた旨、及び2014年は和平交渉を前進させる旨述べた。

【外交】

1 サントス大統領の米国訪問

2～4日、サントス大統領は米国を訪問し、3日、オバマ大統領と首脳会談を行った。

サントス大統領は、米国訪問中、マイアミ大学の訪問（在留コロンビア人及びコロンビア関連企業との懇談）や、OASにおける演説を行ったほか、4日、モレノIDB総裁と会談した。

オバマ大統領との首脳会談には、オルギン外相、ピンソン国防大臣、ロハス商工観光大臣、パルド労働大臣も同席し、首脳会談後、両大統領は共同記者会見を行った。オバマ大統領は、サントス大統領の持続的な平和を実現するための力強く勇気ある取組みについて祝意を述べるとともに、サントス大統領の決断は正しかったと述べた。

2 バローゾ欧州委員会委員長の当国訪問

12日、バローゾ欧州委員会委員長が当国を訪問し、サントス大統領と会談を行ったほか、福祉施設等の視察や援助資金の引き渡し等を行った。サントス大統領との会談において、バローゾ委員長は、FARCとの和平交渉に関して協議し、EUが、紛争後に支援を行う用意がある旨表明した。

3 コロンビア外務省による観光ガイド対象スペイン語習得プロジェクト

12日、コロンビア外務省において、アジア・中南米協力フォーラム（FEALAC）加盟のアジア各国より合計59名、そのうち日本からは4名の参加があったコロンビア外務省による観光ガイド対象スペイン語習得プロジェクトの修了式が行われた。参加者は、コロンビア国内の4都市、8大学に分かれ、8月より4ヶ月間のスペイン語コースを受講していた。

4 バレリー・フルネロン仏スポーツ大臣の当国訪問

16日、フランスのバレリー・フルネロン・スポーツ大臣が当国を訪問し、オルギン外相と会談した。両外相は、両国のスポーツ機関間の協力につき協議した。

5 ヘスス・グラシア・スペイン国際協力・イベロアメリカ担当長官の当国訪問

17日、ヘスス・グラシア・スペイン国際協力・イベロアメリカ担当長官が当国を公式訪問し、オルギン外相と会談し、両国間の協力プロジェクトのフォローアップ等を行った。グラシア長官は、ガルソン副大統領とも会談した。

(了)